

ダム建設により水道取水を確保

長崎水害緊急ダム事業によって、整備された中尾ダムは、長崎大水害により被害を被った八郎川水系中尾川の抜本的な治水対策と、西山ダム、本河内低部ダム再開発により減少した水道用水を補うことを目的に建設されました。

中尾ダムの建設

中尾ダムは堤高 40.0m、堤頂長 201.0mの重力式コンクリートダムです。ダム下流部の環境整備や貯水池部にダムの土捨場跡地を利用した公園など、周辺環境整備も行いました。また、貯水池内に長崎自動車道が通過しています。



(写真) 中尾ダム下流から



(写真) 中尾ダム上空から
貯水池を横断しているのが、長崎自動車道です。



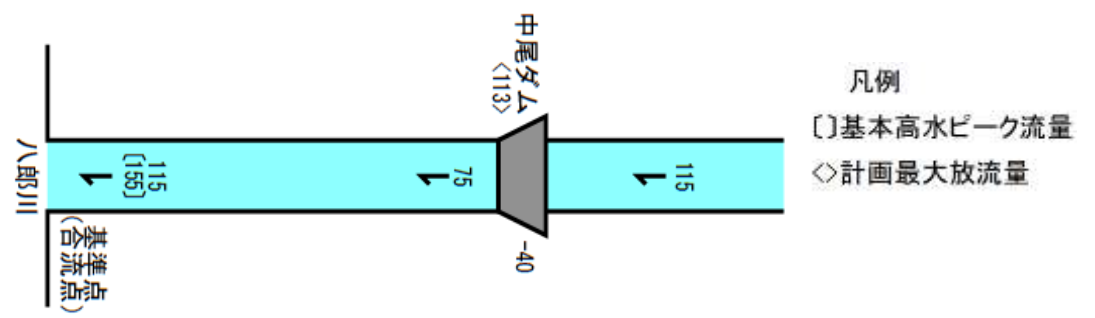
(左写真) 中尾ダム貯水池を横断する長崎自動車道（ダム建設当時）。将来の4車線化を見越して拡幅分の橋脚があらかじめ設置されています。



(右写真) 現在の中尾ダム貯水池の様子。令和4年に長崎自動車道の4車線化が完了しています。



中尾ダム貯水池容量配分図



中尾川計画流量配分図

中尾ダムでは、長崎大水害時の雨での最大流入量 115m³/s をカットし、40m³/s を下流に流します。